

推薦調書（実装部門）

表彰区分	市	推薦都道府県	大分県
地方公共団体名	臼杵市		
取組名称	うすき石仏ねっと		
連携自治体、企業、団体等	うすき石仏ねっと運営協議会（臼杵市、臼杵市医師会等）		
デジタルを活用した取組の概要 （デジタルを活用した取組の全体概要と解決する個別課題の具体的内容）	（種類）	①	（左記が①の場合 の分野） 医療
	【デジタルを活用した取組の全体概要】 「うすき石仏ねっと（以下「石仏ねっと」という）」とは、「うすき石仏ねっと運営協議会」がケーブルネットワークを活用し整備した行政イントラネットで各施設と閉域で接続し、病院、診療所、歯科診療所、訪問看護ステーション、調剤薬局、介護施設、居宅介護支援事業所、消防署などの参加施設の間で対象者の病気、薬、検査結果などの情報を共有するシステムである。また、子育て支援アプリともつながっているため、保護者は当該アプリを介し石仏ねっとが保有する予防接種情報と乳幼児健診結果も確認できる仕様となっている。 石仏ねっと加入者に交付する石仏カードは、FeliCa 方式を採用しており、参加施設の読み取り機にかざすと、瞬時に本人の検査結果、服薬履歴などが時系列で表示される仕組みとなっている。石仏カードには保有者個別の I D が、参加施設（読み取り側）には施設個別の I D が割り振られており、それらが関連付けられることで、情報の確認や更新・蓄積が可能となっている。 【実施に至る経緯・動機】 高齢化が進み医療・介護を支える人材が不足しつつあることを危惧した臼杵市医師会が中心となり、無駄の少ない、安心・安全な医療・介護サービスにつなげることを目的に構築した。 【解決する課題の具体的内容の一例】 ＜救急隊の迅速、適切な初期対応＞①救急救命士の処置範囲が拡大されたことに伴い、迅速かつ適切な初期対応が課題であった。石仏ねっとの救急専用の画面では低血糖、出血傾向などの緊急性が高い情報は強調され、既往歴、かかりつけ医療機関などを短時間で確認できる構成となっている。このため、救急隊員は現場に到着する前に処置の準備ができ、搬送先の選定などにも役立っている。 ②血糖測定の処置をした患者に対する平均現場滞在時間については、石仏ねっと加入者（562 秒）と未加入者（654 秒）との間には 92 秒の差があった。 ＜糖尿病の重症化予防＞①本市の糖尿病有病率が高いことから早期に専門医につなげ、その後の介入を行っていくことで透析等の重症化を防ぐことが必要であったが、市内に糖尿病の専門医が 1 人しかおらず、効率的、効果的な介入方法が課題であった。石仏ねっとの糖尿病連携手帳（複数の医療機関で受ける血液検査等の検査結果を時系列でみることができる機能）の活用で継続的な観察ができ、介入の効果を適切に確認できるようになり、また、かかりつけ医との連携体制も整い、重症化予防を図ることができた。		

デジタルを活用した取組による成果（成果がわかるデータ・数値）	②実施後5年を経て重症化を防ぐことができている傾向が顕著に現れ始めている。この取組により、透析患者を減らすことができれば、1人当たり年間500万円の医療費軽減効果となる。 (%) 糖尿病 糖尿病有病率 (%) 人工透析(糖尿病) 人工透析（糖尿病）有病率
本取組の特徴的な点やデジタルの活用において工夫した点	＜参加機関の協力＞令和4年4月1日時点で市内の医療や介護関係の施設参加率は約97%となり、加入促進に係る参加機関の協力により、市民の約半数以上が加入している（発行枚数：23,897枚）。施設の参加率、市民の加入率の高さは他に類をみないまでに持続的に発展している。 ＜汎用性の高さ＞専門医、かかりつけ医、救急現場だけでなく、歯科医師、調剤薬局、保健指導、介護現場などにおいても活用され、地域包括ケアシステムのツールとして活用している。 ＜働き方改革＞薬剤師においては、検査結果などが患者とのコミュニケーションのきっかけとなり、患者からはよく診てもらっていると評価されている。 令和3年度に整備したWeb会議システムによってサービス担当者会議の移動に係る負担の軽減や、専門職による介助方法の指導が遠隔地からも可能となった。 ＜安心・安全なシステム＞石仏カードには保有者ID以外の情報は登録されていないため、万一紛失してもそれだけで医療情報が漏えいすることはない。 ＜利用者の利便性＞本人の検査結果、服薬履歴などが時系列で表示される仕組みであるため、正確な情報を医師等が確認でき、適切な処置・処方へつながっている。 ＜運営費(令和4年度予算)＞31,453千円（主な収入の内訳 本市の負担金：9,500千円、臼杵市医師会の負担金：9,500千円、会費収入：3,300千円）
今後の展望	＜クラウド型サーバーの活用＞令和4年度に整備される市外の「おおいた医療情報ネットワーク」とも連携し、石仏ねっとともつながる医療機関を拡げ、利便性の向上を図る。 ＜リモートアクセス環境の整備＞令和4年度にテレワークの技術を活用し、セキュリティを担保した上でタブレット端末による閲覧ができるようにシステムを整備する。

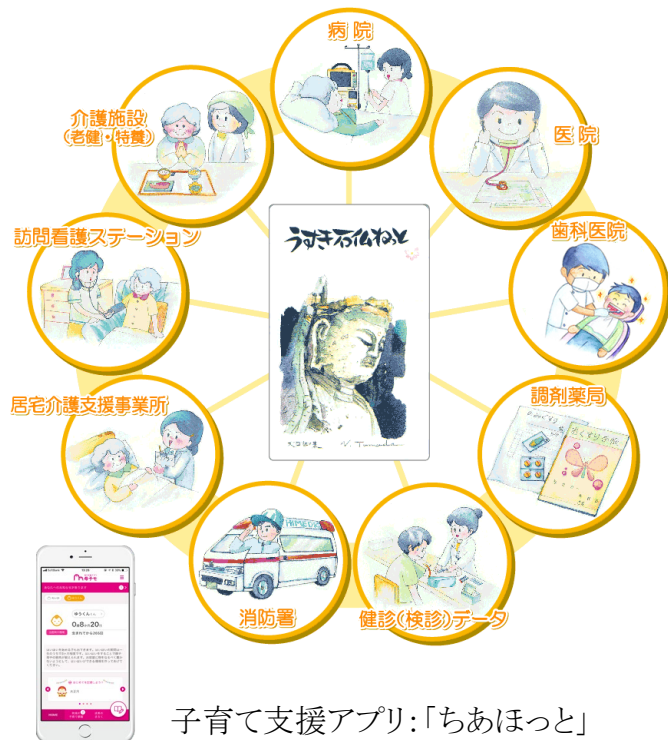
「うすき石仏ねっと」概要図



(石仏カード)

発行枚数:23,897 枚(令和4年4月時点)

※市民の約半数以上が保有



子育て支援アプリ:「ちあほっと」

うすき石仏ねっと

【沿革】

高齢化が進み医療・介護を支える人材が不足しつつあることを危惧した臼杵市医師会が、平成15年に市内の5つの医療機関において検査データを閲覧する実証実験から始まった。

平成27年4月から臼杵市医師会、臼杵市などを構成員とする「うすき石仏ねっと運営協議会」が発足し、運営していくことになった。

【概要】

○病院、歯科医院、調剤薬局、介護施設、消防署などの参加施設の間で病気、薬、検査結果などの情報を共有するシステムである。

○市外の医療機関(大分大学医学部附属病院、天心堂へつぎ病院、津久見中央病院)ともつながっている。

○子育て支援アプリ(「ちあほっと」)ともつながっている。石仏ねっとが保有する予防接種情報と乳幼児健診結果(身長、体重、頭囲、胸囲)が当該アプリに反映され、保護者のスマートフォンなどで確認できるようになり、予防接種のスケジュール管理などに役立っている。

【効果の一例】

○血液検査の結果や他の病院の処方薬もわかるため病気の早期発見、重症化予防、状態の改善につながっている。

○救急搬送時、服薬状況や病名などがわかるため適切な初期対応につながっている。

くうすき石仏ねっと:<http://usukisekibutsu.projectz12.sky.linkclub.com/>>